

2017 年度 入学 試験 問題

日本史 B

(試験時間 10：30～11：30 60分)

1. この問題冊子が、出願時に選択した科目のものであることを確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙には、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入およびマークしてください。解答欄以外への記入およびマークは無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。
5. 解答用紙を折り曲げたり、汚したりしないでください。また、マーク解答用紙を記述解答用紙の下敷きに使用しないでください。
6. 解答用紙には、必ず受験番号と氏名を記入およびマークしてください。
7. マーク解答用紙への受験番号の記入およびマークは、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。問2～問9はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

藤原氏は、皇太子の中大兄皇子や左大臣の [1] とともに、内臣として孝徳天皇^①の下での政治改革を進め、その後も重要な役割を果たした中臣鎌足が、臨終に際して天智天皇から藤原の姓を賜ったことに始まる。

鎌足の子である藤原不比等は律令制度による政治の確立に力を尽くすとともに、娘の宮子を文武天皇に、また、娘の [2] 子^②をその皇太子に嫁がせるなどして天皇家との関係強化に努めた。不比等の死後、皇族の長屋王が一時政治の実権を握ったが、不比等の子である4人の兄弟は策謀により長屋王を失脚させた。しかし、その後の天然痘の流行により兄弟は相次いで病死し、藤原氏の勢力は一時後退した。この4兄弟がおこした4つの家を藤原四家^③という。

孝謙天皇の時代になると、4兄弟の1人である藤原武智麻呂の子の藤原仲麻呂が政界での力を伸ばし、次の淳仁天皇から [3] の名を賜り大師にまで登りつめたが、後ろ盾の [2] 皇太后の死去に伴い力を失っていった。

781年に即位した桓武天皇はさまざまな政治改革をおこない、それは、続く平城天皇^④、嵯峨天皇にも引き継がれた。嵯峨天皇は、改革の一環として幾つかの新しい官職を設けたが、その1つである [4] に任ぜられたのが、天皇の信任の厚かった藤原冬嗣である。この時期の藤原氏は、天皇家との結びつきを強める中でしだいに勢力を伸長していった。冬嗣は天皇家と姻戚関係を結び、その子である藤原良房は臣下で初めての摂政に、良房の地位を継いだ藤原基経は初めての関白となった。

後に延喜・天曆の治とたたえられた醍醐天皇・村上天皇の時代には親政がおこなわれたが、その合間には基経の子の藤原 [5] が摂政・関白を務めた。さらに、左大臣の源高明が左遷された969年の [6] の変以降は、ほとんど常に摂政または関白がおかれるようになり、その地位には [5] の子孫が就くのが通例となった。摂政・関白は、藤原氏における最高位者として藤原氏の^{うじの}氏 [7] を兼ね、大きな権力を握っていたが、その最盛期は、藤原道長とその子頼通が権勢をふるった頃である。^⑥

しかし、後三条天皇が即位して国政の改革に乗り出し、さらにその後を継いだ白河

天皇が1086年に譲位し上皇（院）として院庁を開くと、政治の実権は上皇に移って
いった。一方、藤原氏の一族は、その後も日本の文化などに様々な影響を与え続けた。

問1 文中の空欄 ～ に入るもっとも適切な語・人名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 田荘や部曲の廃止がめざされたとされる。
- b 地方行政組織については、評が廃止されて里がおかれた。
- c 近江大津宮が造営された。

問3 律令制度の確立期における下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 律は行政組織などを規定し、令は刑罰を規定した。
- b 常置の官職の中で最高位のもは、太政大臣であった。
- c 貴族に対しても、民衆に対しても、同一の刑罰規定が等しく適用された。

問4 下線部③に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 九州で反乱をおこした藤原広嗣は、式家の出身である。
- b 光仁天皇の即位に尽力した藤原百川は、京家の出身である。
- c 長岡京造営を主導した藤原種継は、北家の出身である。

問5 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 一部地域を除いて軍団を廃止し、かわりに健児を採用した。
- b 鎮守府を胆沢城から多賀城に移した。
- c 令外官として檢非違使を設けた。

問6 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 律令の施行細則をまとめた『延喜格』が編纂され、施行された。
- b 六国史の最後である『日本文徳天皇実録』が編纂された。
- c 皇朝十二銭の最後である乾元大宝が発行された。

問7 下線部⑥に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 道長は、一条天皇・朱雀天皇・冷泉天皇の外祖父であった。
- b 地方では武士団が成長し、平忠常の乱などもおきた。
- c かな文学が発達し、道長の娘である皇后定子に仕えた紫式部は『源氏物語』を著した。

問8 下線部⑦に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 白河上皇は、院の御所に北面の武士を配置した。
- b 上皇は、通常、自らの意向を綸旨により伝達・命令した。
- c 院に荘園の寄進が集中する一方で、藤原氏はほとんどの荘園を失った。

問9 下線部⑧に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 和歌で有名な冷泉家は、藤原定家の子孫がおこした。
- b 九条兼実の兄で高野山金剛峰寺座主の慈円は、『愚管抄』を著した。
- c 藤原隆信は、肖像画の名手とされている。

II 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。問2～問6はマーク解答用紙にマークしなさい。(20点)

江戸時代に入ると儒学がさかんとなり、多くの儒学者が現れて研究を進めた。江戸時代初期における儒学の発展のうえで大きな足跡を残したのは藤原惺窩^①である。惺窩は朱子学などの啓蒙に努め、優れた弟子を育てた。

惺窩の門弟の一人である林羅山は徳川家康に召し抱えられ、外交文書の作成に携わるなど、幕政のうえでも重要な役割を果たした。羅山は、このほか、幕府の命により歴史書の編纂もおこなっている。この編纂事業は林鶯峯に引き継がれ、1670年に完成した。^②林家は羅山以後代々幕府に仕え、幕府の文教政策に関わった。また、松永尺五は羅山と同じく惺窩の門弟であるが、その尺五に師事した ^③は徳川綱吉の侍講となり、その門弟も幕府に仕えた。^④山崎闇斎も朱子学者であるが、惺窩に始まる学派とは系譜を異にしている。

中江藤樹は、はじめは朱子学を学んだが、やがて中国の の時代に王陽明が唱えた陽明学に傾倒していった。藤樹は日本における陽明学の祖とよばれ、また、故郷で教育に力を注ぎ、 聖人とたたえられている。

中江藤樹の教えを受けた熊沢蕃山は陽明学の影響を受けつつ自己の思想を形成した。蕃山は『』の名でよく知られている書を執筆し、幕政について批判的な意見を述べたが、その後下総古河に幽閉され、そこで死亡した。

儒学者のなかには、朱子学や陽明学などの後世の学者の説ではなく、孔子・孟子の古典を直接学ぶべきだと考えるものも現れてきた。伊藤仁斎や荻生徂徠^⑤などである。徂徠は、古典を理解するには古典成立時の言葉を理解する必要があると主張した。徂徠の学問は、その方法論上の特色から 学とよばれているが、このほか徂徠学とよばれることもある。

問1 文中の空欄 ～ に入るもっとも適切な語・氏名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 惺窩はもとは僧侶であった。
- b 惺窩は朝鮮朱子学者と交流があり、その影響を受けた。
- c 惺窩を祖とする朱子学は南学とよばれる。

問3 下線部②に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 鶯峯が完成させたこの歴史書の書名は『本朝通鑑』である。
- b この歴史書は編年体ではなく、紀伝体で書かれた。
- c 幕府のほかに水戸藩でも徳川光圀の命により歴史書の編纂が始められた。

問4 下線部③に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 綱吉は文武忠孝と礼儀についての規定を武家諸法度第1条においた。
- b 綱吉は湯島に官立の学問所を新設し、岡田寒泉などをその儒官に任命した。
- c 綱吉は民衆教化のため儒教の徳目を解説した『六諭衍義大意』を刊行した。

問5 下線部④に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 闇斎は、神道と儒学を融合させた垂加神道を唱えた。
- b 闇斎は咸宜園を開き門弟の教育をおこなった。
- c 山県大弼は闇斎の説を公家に説いたため、宝暦事件で処罰された。

問6 下線部⑤に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 徂徠は『聖教要録』で、中国古代聖人の説く「道」とは何かについて論じた。
- b 徂徠は徳川吉宗の求めに応じ政治改革についての意見書を書いたとされる。
- c 徂徠の門人には藩営専売制の導入を説いた太宰春台がいる。

Ⅲ 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1、問7は記述解答用紙に答えなさい。問2～問6はマーク解答用紙にマークしなさい。(34点)

明治維新以降、近代国家建設をめざす政府は、率先して西洋の産業技術や社会制度から学問・思想や生活様式に至るまでを取り入れようとした。これに伴う文明開化と呼ばれる風潮の中、新聞・雑誌その他の出版物が近代文化の発達に果たした役割は大きかった。が鉛活字の量産に成功して活版印刷が発展したことにより、『横浜毎日新聞』など日刊新聞が続々と創刊され、新しい思想や文化を紹介するとともに政治問題を扱った。新聞は全国的に普及するなかで民衆の政治に対する不満を代弁し、その政治的な成長を促した。雑誌では、^①明六社により『明六雑誌』が刊行された。

板垣退助らが提出した民撰議院設立の建白書は新聞『』に掲載されて世論に大きな影響を与え、自由民権運動の口火となった。自由民権論の急激な高まりに対し、政府も時間をかけて立憲制に移行するべきことを決めたが、一方で、1875年、讒謗律・新聞紙条例を公布し、さらに出版条例を改正して、反政府的言論を厳しく取り締まった。^②

1881年に国会開設の勅諭が出され国会開設の時期が示されると、自由民権運動は政党の結成へと進んだ。同年に結成された自由党は、の流れをくみ、士族や豪農などに支持された。翌年には大隈重信が、ともに下野した官僚やジャーナリストを集め立憲改進黨を結成した。政府側も福地源一郎らを中心に保守的なを結成させた。各政党は機関紙を刊行して自党の政策を宣伝した。自由党は『自由新聞』を発行し、立憲改進黨は結党に加わった^③矢野龍溪が買収した『郵便報知新聞』を機関紙とし、は福地源一郎が当時の社長であった『』を機関紙とした。

国会開設が政府の方針になると、在野でも独自の憲法草案がつくられた。矢野龍溪も属したは「私擬憲法案」を発表して立憲君主主義と議院内閣制を主張したのに対し、自由党のの作成した「東洋大日本国国憲按」は、広範な人権保障、権限の強い一院制議会、抵抗権・革命権などをもった急進的なものであった。

明治時代の中ごろから終りにかけて、自由民権論やアジア情勢・条約改正などをめぐって世論が高まる中で、新聞や雑誌が次々と発刊されて各政党やさまざまな立場の

主張や思想を紹介した。1882年には『時事新報』、1892年には『』が刊行された。

雑誌は、1880年代後半における政論雑誌の創刊から本格的に発達し、1890年代には『太陽』・『中央公論』・『東洋経済新報』などの雑誌も発刊された。は、雑誌『国民之友』を刊行し、平民的欧化主義の必要を説いた。これに対し、三宅雪嶺・志賀重昂らは1888年にを結成し、雑誌『日本人』を発行して欧化政策を批判した。また、陸羯南は、1889年に新聞『日本』を創刊して国民主義を唱えた。

日英同盟が結ばれてもロシアは満州に駐兵を続けたので、日本のロシア不信は強まり、1903年には開戦の不安が広まった。日本国内では、対露同志会など対外硬派の運動により主戦論が高まった。そのなかで、『』では、幸徳秋水・堺利彦が社会主義の立場から反戦論を主張した。しかし、『』が主戦論に転じると幸徳・堺は退社し、『』を刊行して反戦を唱え続けた。

大正期から昭和初期にかけての文化の最大の特徴は、文化の大衆化にある。新聞では、大正末期には、『大阪朝日新聞』と『東京朝日新聞』、『大阪毎日新聞』と『』の系列のように発行部数100万部を超える新聞が現われた。雑誌では、1919年には『改造』や『解放』などの総合雑誌が、また1925年には『キング』などの大衆雑誌が続々と創刊された。

満州事変が開始されると、新聞などのマスコミは、陸軍の発表をうのみにして報道した。国家主義的気運の高揚の中で、1935年に刊行された『』によった保田与重郎らは、反近代と民族主義を掲げる文学評論をさかんに発表した。1942年には、を会長として日本文学報国会が組織され、言論人・文学者らを戦争に協力させる体制がつくられた。

問1 文中の空欄～に入るもっとも適切な氏名・団体名・新聞名または雑誌名を漢字で答えなさい。

問2 次の説明のうち、下線部①の明六社の結成に加わった人物についてのものにはイ、そうでない人物についてのものにはロをマークしなさい。

- a 幕末に薩摩藩からイギリスに留学し、後に初代文部大臣として学校令を公布した。
- b 幕末に洋書調所の教官としてオランダに留学し、同地で学んだ国際法に関する『万国公法』を刊行した。
- c 『真政大意』を刊行して天賦人権思想を紹介したが、後に、社会進化論の立場から『人権新説』を刊行して天賦人権論を批判した。
- d 『古事記』・『日本書紀』に科学的分析を加えて古代史研究に新境地をひらいたが、著書『神代史の研究』について発禁処分を受けた。

問3 下線部②の言論の自由とそれへの制限に関連する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 讒謗律は結社の自由をも制限した。社会民主党が結成直後に解散を命じられたときも、讒謗律が根拠とされた。
- b 自由民権運動では言論の自由がとくに重視され、いわゆる三大事件建白運動でも、言論の自由が要求項目に掲げられた。
- c 大日本帝国憲法では、言論の自由に関する規定はおかれなかった。

問4 下線部③の矢野龍溪が著した政治小説の題名を、次のうちから1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 『戊戌夢物語』 b 『経国美談』 c 『佳人之奇遇』
- d 『自然真営道』 e 『雪中梅』

問5 下線部④に関連する次の説明のうち、誤っているものを2つ選んで、その記号をマークしなさい。

- a 日露協調論の立場をとっていた陸羯南も、義和団事件をきっかけにロシアが満州を占領すると、対露強硬論に転じた。

- b 戸水寛人ら東京帝国大学などの七博士が強硬な主戦論を唱え、世論を刺激した。
- c 与謝野晶子は、「君死にたまふこと勿れ」とうたう反戦詩を雑誌『明星』に発表した。
- d 日本政府内には、山県有朋・小村寿太郎を中心にロシアと協商を結び相互の譲歩により両国間の問題を解決しようという考えもあったが、実現しなかった。
- e 内村鑑三も、幸徳秋水・堺利彦と同じく社会主義の立場から反戦論を唱え、彼らの結社に加わった。

問6 空欄 , に入る団体名を次のうちからそれぞれ1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 硯友社 b 猶存社 c 愛国社 d 国本社
e 改造社 f 政教社

問7 次の各史料（旧字体は新字体に改めるなどの変更をした）は、どの新聞または雑誌に掲載されたか。その新聞名または雑誌名を、本文に現れている語を用いて答えなさい。

A 左れば今日の謀を為すに、我国は隣国の開明を待て共に亜細亜を興すの猶予ある可らず、（中略）悪友を親しむ者は、共に悪名を免かる可らず。我れは心に於て亜細亜東方の悪友を謝絶するものなり。

B 我々が視て以て憲政の根柢と為すところのものは、政治上一般民衆を重んじ、其間に貴賤上下の別を立てず、而かも国体の君主制たると共和制たるとを問はず、普く通用する所の主義たるが故に、民本主義といふ比較的新しい用語が一番適當であるかと思ふ。

IV 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。問2はマーク解答用紙にマークしなさい。(16点)

1935年2月、第67回帝国議会貴族院本会議で、 議員は、「(前略) 所謂機關説ト申シマスルノハ、國家ソレ自身ヲーツノ生命アリ、ソレ自身ニ目的ヲ有スル恆久的ノ團體、即チ法律學上ノ言葉ヲ以テ申セバーツノ ト觀念イタシマシテ、 ハ此 タル國家ノ元首タル地位ニ在マシ、國家ヲ代表シテ國家ノ一切ノ權利ヲ總攬シ給ヒ、 ガ憲法ニ從ッテ行ハセラレマスル行爲ガ、即チ國家ノ行爲タル効力ヲ生ズルト云フコトヲ言ヒ現ハスモノデアリマス (後略)」という演説をおこなった。

この演説は、同月、貴族院本会議において、 議員が、 議員の著書を取り上げたことに対して、おこなわれたものである。

時の 内閣は、陸軍などの圧力に屈し、同年8月、「(前略) 憲法發布ノ御上諭ニ『國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ』ト宣ヒ、憲法第一條ニハ『大日本帝國ハ ノ 之ヲ統治ス』ト明示シ給フ。即チ大日本帝國統治ノ大權ハ儼^{げん}トシテ ニ存スルコト明ナリ。(中略) 近時憲法學說ヲ繞^{めぐ}リ (中略) 兎角ノ論議ヲ見ルニ至レルハ寔^{まこと}ニ遺憾ニ堪ヘズ。(後略)」という政府声明を發した。これを 声明という。

翌年、陸軍内部の対立に端を發して、一部青年將校が、首相官邸などを襲撃し、その周辺を4日間にわたって占拠する事件をおこしたが^①、その後、陸軍はさらに政治的發言力を増していった。

問1 文中の空欄 ~ に入るもっとも適切な語・氏名を漢字で答えなさい。なお、旧字体でなくてもよい。

問2 下線部①に関する次の説明のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a この事件は、北一輝らの思想に影響を受けた陸軍統制派の青年将校がおこしたものである。
- b この事件において、高橋是清、渡辺錠太郎、団琢磨らが命を落とした。
- c この事件の後に成立した内閣で、軍部大臣現役武官制が復活した。